

小規模多機能型居宅介護「サービス評価（外部評価）」 総括表 （令和4年度）

法人名	株式会社 加賀福祉サービス	代表者	中村 眞	法人・事業所の特徴	J A加賀を母体とした事業所で、法人として居宅系サービス事業も提供しています。隣接の畑で地域の方々の協力をいただき野菜を育て、その過程を楽しんでいただけるようにしています。「家におりたい」というご本人の言葉を大切に、特別な支援ではなく普段と変わらない穏やかな1日を‘えがお’で過ごして頂けるように法人理念をもとに取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能ホームなんごうえがお	管理者	南出明子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	1人	1人	人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	全項目①～⑨の改善計画をスタッフが立案する。職員カンファレンスで6月までに具体的な内容にしていく。	・具体的な改善計画をスタッフが立案することは出来た。立案で終わってしまった計画があり来年度に向けて取り組んでいることもある。また評価しづらい計画は見直した。	・改善計画を実際にケアに携わるスタッフが考えたのはよかった。評価しやすかったと思います。 ・毎年のことだが目標を1, 2個にししないと、これ以外にも多くのことをしなくてはいけないだろうに大変だと思います。事業所だけで全部（A～Fの項目内容もあわせて）を事業所だけでは困難だと思うので市役所も助けてあげない大変だと思います。	○全項目①～⑨の改善計画をスタッフが立案する。職員カンファレンスで6月までに具体的な内容にしていく。 ・改善計画立案は項目毎の担当制にし、実施実行と年度末の評価まで主になり進めてく。

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>「ご意見をいただく」という主旨の内容を9月までに決定しご家族宛に配布。頂いた内容をカンファレンスで話し合い、取り組めるように検討項目にできるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じコロナ禍で感染対策に追われ、また事業所内でも陽性者が発生し取り組み出来なかった。 ・10月にエアードッグを導入し、換気が十分できない季節にも安心感をもちご利用者をお迎えできケア提供も出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に立ち寄る機会がなかったため状況はわからないが、‘えがお通信’を見て雰囲気はわかった。地域の畑や精米機が、前にあるので地域の人に事業所の存在を知ってもらえるので立地的によいと思います。 ・「玄関のカギがかかっていますか」という問いがあるのは何故か？と思ったが説明を聞きわかりました。 	<p>○地域の方やご利用者家族の方々が気軽に立ち寄れたり相談に出向きやすい環境づくりや雰囲気づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の畑で農作物を作ったり、玄関前にプランター花植えや七夕飾り等季節が感じられるように施す。 ・ご利用者がフロア外のテラスに出て過ごす機会を増やす。
----------------------------	---	--	--	---

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>ブランチ担当スタッフから地域との関わりや活動内容を聞き、スタッフ皆で学び事業所としてできることを考えていく。また直接交流・間接交流をそれぞれの企画をたて実行できるように準備していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であった為、改めて事業所として出来る事を考えること実行することは出来なかったが、声掛けいただいた企画に便乗させていただき形として南郷地区座談会へ参加、南郷小学校や学童クラブとの交流、JA女性部主催の講座等をとおして交流することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に直接相談をする人がいるので地域には知られていると思うし、相談しやすい場所とされていると思います。 ・心配な方の相談をした時らすぐに対応してくれて安心出来ました。そのあとも連絡をしあい、情報共有できたのでよかったです。 ・小学校で高齢者を知る授業で寸劇をしてもらい子供達は興味をもって参加できた。学校のコロナ対策の制限も解かれてきているので来年度はもう少し交流できるという。 	<p>○地域の方々と関わりがもてるように、またより事業所の活動を知っていただけるように取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南郷地区の各会合（座談会、民生委員、老人会等）や小学校や学童クラブとの交流、JA女性部主催の講座等へお声掛けいただけるように運営推進会議を通してお願い今年度も参加していく。 ・‘えがお通信’には、ブランチとして「相談窓口」であることもお知らせする内容と事業所内の行事や活動内容をご利用者の写真も併せて掲載し、ご家族や地区内の回覧板でも見ていただくことを継続していく。 ・ホームページに‘えがお通信’を掲載、また‘なんごうアルバム’の項目を設けており定期的に写真を更新していく。 ・事業所前の畑作業を地域の方に手伝っていただいたり、わからないことはお聞きし農作物を作っていく。
-----------------------	--	---	---	---

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<p>はつらつ塾や各町のサークルやサロンにランチ担当スタッフが伺い、直接交流がもてる企画を増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ塾には適宜顔出しは出来ているが、一緒に参加は出来ない。南郷町サークルには毎年4月に体操や健康介護相談の講師依頼があり参加している。それ以外に、今年度は黒瀬町サークルに参加出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者と地域との結びつけることをもう少し計画できたらいいと思います。 ・出向くことは難しかったと思いますが、事業所内で行事をしたり小学校や学童クラブの子供達が来ている様子もあり、そのためのお土産作りもしていたようなので出来ていたと思います。コロナ感染のこともあるので急がず、できる事だけでいいと思います。 ・南郷地区の住所の人の利用が増えてきているのはランチで訪問しているので知られてきたからだと思う。知っている事業所だと安心できると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ご利用者の軒下マップを作成し今まで繋がっていた社会資源を知り、暮らしの支援やケアに生かしく。 ・繋がっていた場所に一緒に出掛けたり、知り合いと会える機会を作っていく。 ・天気の良い日にご利用者とスタッフで事業所前の駐車場スペースに出て、精米機や畑作業に来た地域の方々と顔を合わせ挨拶する機会を増やす。 ・送迎や訪問等でご近所の方々に会えた時には挨拶を忘れずに行う。 ○外出やイベントをコロナ等の感染状況を確認しながら企画実施し、ご利用者の楽しみや生きがい等をお聞きする機会にもしていく。 ○ランチとして、地域のサークルやサロン、はつらつ塾へ伺ったり、民生委員等の高齢者世代に関係する方々にも相談窓口であることを説明する機会を増やしていく。 ・南郷地区の特徴を説明する機会を設け、介護予防や介護の知識を広める活動をしていく。
--	---	--	--	--

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議で参加する方々から報告をいただき、南郷地区の地域情報の交換や交流の場所にしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度は4か月に1回の割合でしか会議開催できなかった。開催時には、各参加者から近況報告をいただいている。また今年度から障害事業所からも参加いただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染もひどかったので開催回数や時間も1時間だったので十分な話し合いは難しかったと思います。 ・介護保険のことや介護事業所のこととはよくわからなかったので勉強になりました。学校のことや障害者施設のこと聞いてよかったです。 	<p>○運営推進会議では参加する方々から各関係機関に関する報告をいただき、南郷地区の地域情報の交換や交流の場所にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所だけでなく、参加メンバーの方々から挙げた内容に関し意見交換していく。 ・事業所ご利用者やランチ対応をした事例を報告し、具体的な活動や対応内容を知っていただけるようにする。 ・課題が挙げた時は、対応策を一緒に考えて意見をいただき早急に取り組む。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>災害や感染症等の緊急事態になっても重要な業務を継続できるような方策の計画書（=BCP：業務継続計画書）完成を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能事業所としてBCP作成は完成出来ていない。来年度中に計画策定が義務付けられているので完成させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防火訓練は大切だと思います。いざという時にまずどう動くかを皆さんで周知できるとよいと思います。 ・コロナ感染のことを報告してもらい大変だったことがわかりました。 	<p>○災害や感染症等の緊急事態になっても重要な業務を継続できるような方策の計画書（=BCP：業務継続計画書）完成を目指します。完成後、運営推進会議で報告し問題点等の助言をいただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する備品を選定し購入していく。 <p>○スタッフの防災意識や災害発生時の対応を高めることを目的に、事業所では1年に2回の防火訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に課題になることをスタッフからも意見をもらい、マニュアルを見直していく。 ・コロナ感染状況に応じて、地域の防災士や防災リーダーの方々に訓練に参加いただき、マニュアル見直しの機会にしていく。

